



埋没樹の分布状況



調査により掘り出された埋没樹

目次

- ・企画展 ひな人形展 ————— 2
- ・近代から「とよた」を発見する 近代の産業とくらし発見館 ————— 3
- ・トピックス 合併した旧町村の指定文化財 3 ————— 4
- ・発掘調査速報-堂外戸遺跡 ————— 6
- ・矢作川河床埋没林の調査はじまる ————— 7
- ・文化財シリーズ54・資料館 NEWS ————— 8

「ひな人形展」

1月28日(土)～3月12日(日)／月曜休館／観覧無料

当館では、市民の皆様から多くの資料を寄贈していただいております。今回の企画展は、寄贈された資料を中心に、江戸時代後期から昭和のひな人形を展示します。

ひな祭りの由来

ひな祭りは、女の子の健やかな成長を願って行われる祭りです。3月3日(上巳)の節句に、人々が長い冬の間に身につけた身の罪やけがれを祓うために、藁や紙で作った「ひとがた」「かたしろ」で自分の体をなでて、禍や身のけがれを移して川や海に流したといわれています。このような風習が、流し雛の行事として残る地方もあります。

また「天児」「這子」という簡単な人形を新生児の枕元に置いて無病息災を願うことがありました。これらの祓いの風習が、「ひいなあそび(人形遊び)」と結びつき、次第にひな祭りとして行われるようになったと考えられています。



内裏雛(天保11年記)

おもな展示資料：内裏雛

今回の展示資料で最も古いものは、天保11(1840)年に買ったことが記されている内裏雛です。

面長の顔立ちに切れ長の目をした上品なおひな様です。高さは40cmほどあります。また、江戸時代のおひな様としては、拳母藩内藤家より拝領したと伝えられる内裏雛があります。人形の高さだけで41cmあり、台座を含めると60cmにもなる大型のもので、衣装も刺繍が施された立派なものです。

内裏雛としては江戸時代後半のものが3対、明治時代後半のものが3対、大正時代のものが1対あるほか、年代不明のものが3対あります。顔の作りがより写実的になり、彫が深くなるようすを見比べることができます。



女雛(伝内藤家拝領)

おもな展示資料：御殿飾り・段飾り

男女一対の人形に三人官女や五人囃子の人形、道具類を飾って段飾りをするようになったのは江戸時代中頃からといわれています。江戸では七、八段飾りの揃いが多く、上方では二、三段の飾りに御殿をしつらえた御殿飾りが多かったといえます。展示では、御殿全体を模したものや内裏部分だけを作ったものがあり、形や作りの違う御殿飾りをご覧ください。一般に御殿飾りの人形は、小型となりますが、小さな人形に細かな細工が施されたものや、本塗りの立派な道具類は見ているだけでも楽しいものです。



御殿飾り

この他の展示資料としては、この地域で飾られることの多かった土雛、ひな人形セットと共に飾られた舞踊人形や、高砂人形などがあります。

春の訪れを告げるひな祭り、市内で大切にされてきた人形をぜひ、ご覧ください。

※親子体験講座「おこしもの」をつくってみよう！を開催します。

2月25日(土)

①午前10時～ ②午後1時30分～

※申し込みが必要です。問い合わせは当館まで

(伊藤 智子)



— 近代から「とよた」を発見する — 近代の産業とくらし発見館

平成17年11月1日(火)、豊田市駅から東へ歩いて約5分、豊田市の中心市街地に新しい展示・体験施設が開館しました。その名は「豊田市 近代の産業とくらし発見館」(以下「発見館」)。少し長い名称ですが、この施設が取り扱う分野の範囲や、活動の概念をそのまま示しています。すなわち、明治から昭和初期を中心とした時代「近代」のうち、市域の「産業」に関連する遺産と、市街地の変遷や町屋の生活「くらし」に関連する事柄を主題として展示・紹介する施設です。

また、施設名称として一般的な「資料館」ではなく「発見館」としたのは、さまざまな近代の遺産を通じて、来館者自らが市域の特色や成り立ちを発見するきっかけとなる場、となることを施設の基本的な考え方の一つとして掲げていることに由来しています。



第一展示室

常設展示「とよたの近代産業」・企画展示や体験コーナーを設置

発見館は、大正10(1921)年に建設され、国の登録文化財に登録されている「旧愛知県蚕業取締所第九支所」の建物を利用しています。この建物は現存する建物としては市内最古級の鉄筋コンクリート造りの建物です。建物の意匠も特徴的で、平面形や大きな窓に西洋建築的な装いを持つ一方、屋根や各柱の頭部には伝統的な和風建築の様式が用いられています。また、蚕の品種改良や検査を行う蚕業取締所として利用されていたこの建物は、豊田市域が養蚕で栄えていた頃を偲ぶことができる数少ない遺産の一つでもあります。



第二展示室・「茶の間の風景」

「近代」や「産業」という言葉から受ける印象には、直接地域の文化や特色と結びつく事柄が思い浮かばないかもしれませんが、私たちが生活している現代に最も近い過去は近代です。そして近代の生活を支えた産業は、地域の特性から生まれ、地域の人々によって育まれました。そこから振り返って考えれば、「近代」や「産業」は地域の文化や特色を知るうえで、興味深い事例を示してくれます。

発見館では、ご希望の来館者にはスタッフが展示をわかりやすくご案内しています。資料に触れたり技術や遊びを体験できたりするコーナーも設けていますので、気軽に「近代」に親しんでいただければと思います。

今後は、講演会や体験講座、企画展示なども行い、豊田市域の特色を発見する場・人や情報などの交流の場・近代の遺産の保存と活用となることを目標として活動を展開します。また市域全体を展示室と捉え、市域に点在する近代の遺産を現地で直接見たり触れたりする「とよたモダントラベル」を提唱しています。

近代から「とよた」を探しに、発見館へぜひご来館ください。

(天野 博之)

豊田市近代の産業とくらし発見館

所在地：豊田市喜多町4丁目45番地

TEL(0565)33-0301 / fax(0565)33-3019

E-mail : hakken@city.toyota.aichi.jp

開館時間：9:00～17:00

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始

合併した旧町村の指定文化財3 一下山・旭地区

指定文化財の紹介の3回目は旧下山村と旧旭町の文化財です。

杉本の貞観スギ

神明神社(杉本町)

1944(昭和19)年に国の指定を受けた天然記念物です。このスギは杉本町の神明神社境内にある県内最大のスギです。平安時代中頃の貞観年間(859-876年)に創建されたといわれている神明神社の創建時に植えられたと伝えられていることから「貞観スギ」の名称があります。



下山地区指定文化財一覧

区分	種別	名称	所蔵又は管理者	指定年月日	時期	所在地	備考
市	無形民俗文化財	阿蔵念仏踊り	阿蔵地域念仏踊り保存会	1977.12.20	江戸末期		道行・観音道行・新車・二拍子・十六拍子・さぎり・二上り・岡崎・大拍子等の踊り
市	無形民俗文化財	大沼雅楽	大沼雅楽会	1977.12.20	明治		箏・笙・しちりき・太鼓・鉦鼓・笏拍子等による演奏
市	無形民俗文化財	下山村の三河万歳	下山村三河万歳保存会	1977.12.20	昭和初期		御殿万歳・三曲万歳
市	無形民俗文化財	黒坂の祭り囃子(巴太鼓)	巴太鼓保存会	1988.4.1	文政年間		神明神社の祭礼に赴く際に、祭り囃子を演奏
市	工芸	鱧口	個人	1979.10.1	明徳元年	東大林町西洞50	銅板製 直径18cm 厚さ4.5cm
市	工芸	陶製狛犬	個人	1996.3.1	推定元禄	東大林町西洞50	阿吽形とも高さ31cm
市	工芸	陶製狛犬	個人	2000.12.25	推定室町末期	東大林町西洞50	高さ20.5cm
市	考古資料	有舌尖頭器	個人	1979.10.1		東大林町西洞50	高さ5.5cm 幅1.4cm
市	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	個人	1982.4.1	推定平安後期	田折町峯地37	坐高65cm、台座35cm、後背100cm
市	天然記念物	阿蔵のカシ	個人	1982.4.1		阿蔵町沢尻28	胸高囲4.5m、根囲5.5m、樹高27m
市	天然記念物	宇連野のシャクナゲ	個人	1982.4.1		宇連野町和出貝津4	根囲1m、樹高6m、枝張り4.5m
市	天然記念物	白山神社のスギ	個人	1982.4.1		立岩町クログゴ22	胸高囲6.5m、根囲9m、樹高40m、枝張り20m
市	天然記念物	白山神社のスギ	個人	1982.4.1		立岩町クログゴ22	胸高囲5.5m、根囲5.8m、樹高34m
市	天然記念物	白山神社のヒノキ	個人	1982.4.1		立岩町クログゴ22	胸高囲3.6m、根囲5.5m、樹高35m
市	天然記念物	吉平のヒイラギ	個人	1982.4.1		野原町奥屋19	胸高囲1.2m、根囲1.6m、樹高10m、枝張り6m
市	天然記念物	易住寺のクログネモチ	個人	1982.4.1		花沢町小御堂71	胸高囲2.5m、根囲2.9m、樹高20m
市	天然記念物	等順寺のイチヨウ	個人	1982.4.1		大沼町後庵100	胸高囲3.1m 根囲3.9m、樹高29m、枝張り15m
市	天然記念物	白山神社のタブノキ	個人	1988.4.1		東大林町平岩2	胸高囲4.1m、根囲3.7m、樹高30m
市	天然記念物	花沢のケヤキ	個人	1989.4.1		花沢町小御堂61	胸高囲3.3m、根囲4.2m、樹高25m、枝張り22m
市	天然記念物	大林のケヤキ	個人	1990.10.1		東大林町中古田51	胸高囲3m、根囲4m、樹高30m、枝張り23m
市	天然記念物	羽布のカヤ	個人	1990.10.1		羽布町尾関6	胸高囲3.4m、根囲3.9m、樹高20m、枝張り19.5m
市	天然記念物	小松野のカヤ	個人	1990.10.1		小松野町宮下61	胸高囲3.3m、根囲4.3m、樹高20m、枝張り16m
市	天然記念物	平瀬のヒノキ	個人	1999.4.1		平瀬町森越54	胸高囲4.1m、根囲5.8m、樹高28m、枝張り13.5m
市	天然記念物	大林のヤマザクラ	個人	2000.12.25		東大林町上半14-1	胸高囲4.1m、根囲4.3m
市	天然記念物	羽布のブナ	個人	2003.2.1		羽布町二夕瀬14-1	胸高囲3.4m、根囲3.6m、樹高25m

53号 p.2〔木造観音菩薩坐像〕についてのお詫びと訂正

所蔵：昌全寺(誤)→平勝寺(正)

写真：誤って平勝寺蔵ではない観音菩薩坐像の写真を挿入していました。お詫びして訂正いたします。

旭地区指定文化財一覧

区分	種別	名称	所蔵又は管理者	指定年月日	時期	所在地	備考
国	天然記念物	杉本の貞観スギ	豊田市	1944.6.26	平安	杉本町鳥居前19	県下最大のスギ。胸高囲11.7m、根囲14.5m、樹高45m
県	無形民俗	旭町の棒の手	大坪 棒の手保存会	1976.7.14	明治	大坪町日向1	明治18年8月大坪が伝授を受け、起倒流の中でも優秀なことから指定された。
県	無形民俗	坪崎の火きり神事	坪崎 火鑽神事保存会	1976.7.14	不明	坪崎町	民間で行われている火鑽神事は珍しく、最も原始的な発火法を今も継承。
県	天然記念物	八幡のサクライソウ・ツクバネ自生地	八幡神社	1954.3.12	不明	旭八幡町築羽山 296の1、294の1	県下では、本社叢のように多数成育している例は他にない。
県	天然記念物	時瀬のイチョウ	神明神社	1969.10.29	不明	時瀬町仲切3	胸高囲6.5m、根囲8.8m、樹高31m、幹の大きさでは県内最大
県	天然記念物	伊熊神社の社叢	伊熊神社	1969.10.29	不明	伊熊町笠松2	内陸部における暖温混合林としての社叢はきわめて価値が高い。
県	彫刻	木造 十一面観音菩薩立像	常福寺	1970.9.28	平安末期	槇本町道下6・7合地	像高123cm、裾張り27cm
市	彫刻	木造阿弥陀如来立像	大法山観音寺	1975.1.10	江戸初期	太田町宮前43	一木造り。像高31.5cm、裾張り10.8cm
市	彫刻	木造聖観音菩薩立像	白石観音堂	1975.1.10	鎌倉	杉本町石畑25-1	桧の一木造り。像高62cm、裾張り13cm、全高69cm
市	彫刻	押井の磨崖仏	押井町	1975.1.10	江戸 (文久3年)	押井町東の坂3-1	俱利伽羅明王は、当地方に例のない珍しい仏像。
市	彫刻	地藏菩薩立像	増光寺	1976.3.13	江戸 (寛文6年)	万町町平頭ヶ入17	石造り 像高61cm、裾張り29cm
市	無形民俗	藤牧藤検流棒の手	杉本町	1986.10.1	大正	杉本町	明治中頃、篠原から伝承以来(途中第二次世界大戦により一時中断)続く。
市	無形民俗	丹波大垣内流 打ちばやし	杉本町	1986.10.1	明治	杉本町	明治30年創設地の丹波流宗家を譲受け、伝承地の大垣内の地名を加え丹波大垣内流と命名して、現在に伝わる。
市	無形民俗	見当流棒の手	押井町	1987.2.10	明治	押井町	明治19年に東加茂郡近岡村から伝承以来(途中第二次世界大戦により一時中断)続く。
市	有形民俗	繭の標本	豊田市 旭郷土資料館	1986.10.1	明治～昭和	牛地町西久保2-85	
市	有形民俗	上中切の陶製狛犬	上中切神明神社 (旭支所保管)	1989.9.22	江戸(宝暦 6年丙子)	小渡町船戸15-1	
市	考古資料	縄文式土器	豊田市 (旭交流館)	1976.3.13	縄文時代 中期	小渡町船戸15-1	高さ21cm、口径16cm
市	考古資料	黒曜石	豊田市 (旭交流館)	1986.10.1	不明	小渡町船戸15-1	縦11.5cm・横8.5cm・高さ4.3cm・重量380g
市	考古資料	尖頭器	豊田市 (旭交流館)	1986.10.1	旧石器時代	小渡町船戸15-1	長さ11.2cm
市	天然記念物	しだれざくら	個人	1984.7.1	江戸	田津原町日向19-1	胸高囲2.92m、樹高約16m、樹齢 推定350年
市	天然記念物	かや	個人	1984.7.1	室町・戦国	田津原町日向35-1	胸高囲4.95m、樹高約20m、樹齢 推定500年
市	天然記念物	かや	個人	1984.7.1	室町・戦国	田津原町日向35-1	胸高囲3.65m、樹高約20m、樹齢 推定500年
市	天然記念物	百日紅	閑羅瀬町	1984.7.1	江戸	閑羅瀬町大切19	胸高囲2.20m、樹高約8m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	かごの木	津島神社	1984.7.1	江戸	市平町西8	胸高囲4.56m、樹高約15m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	七色木	津島神社	1984.7.1	不明	市平町西8	胸高囲5.0m、樹高約20m、樹齢 不詳
市	天然記念物	すぎ	慈眼寺	1984.7.1	江戸	杉本町入3	胸高囲5.40m、樹高約35m、樹齢 推定350年
市	天然記念物	けやき	個人	1984.7.1	江戸	押井町東坂3-1	胸高囲5.5m、樹高約25m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	ひのき	個人	1984.7.1	江戸	惣田町 モロヤケ入6	胸高囲5.5m、樹高約25m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	すぎ	津島神社	1984.7.1	室町・戦国	惣田町小森田5	胸高囲6.15m、樹高約40m、樹齢 推定500年
市	天然記念物	たらよう	個人	1984.7.1	明治	日下部町殿貝戸17	胸高囲1.90m、樹高約25m、樹齢 推定100年
市	天然記念物	いちよう	常福寺	1984.7.1	江戸	槇本町道下6・7	胸高囲4.35m、樹高約35m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	いちよう	妙義神社	1984.7.1	江戸	伯母沢町高見6	胸高囲5.25m、樹高約35m、樹齢 推定350年
市	天然記念物	つが	妙義神社	1986.10.1	安土・桃山	伯母沢町高見6	胸高囲3.9m、樹高約21m、樹齢 推定400年
市	天然記念物	むく	個人	1986.10.1	江戸	池島町坂口3	胸高囲5.0m、樹高約21m、樹齢 推定350年
市	天然記念物	すぎ	小馬寺	1986.10.1	室町・戦国	牛地町駒山6	胸高囲4.6m、樹高約35m、樹齢 推定500年
市	天然記念物	すぎ	小馬寺	1986.10.1	室町・戦国	牛地町駒山6	胸高囲6.3m、樹高40m、樹齢 推定500年
市	天然記念物	ぶな	小馬寺	1986.10.1	江戸	牛地町駒山6	胸高囲2.5m、樹高約25m、樹齢 推定300年
市	天然記念物	ぶな	小馬寺	1986.10.1	江戸	牛地町駒山6	胸高囲2.5m、樹高約25m、樹齢 推定350年
市	天然記念物	いちよう	津島神社	1984.7.1	江戸	惣田町小森田5	胸高囲4.5m、樹高約29m、樹齢 推定250年

(杉浦 裕幸)



どうたくん

発掘調査速報



すえちゃん

○ 堂外戸遺跡(市木町堂外戸)

平成17年9月から、後半3,100m²の調査を開始しました。遺跡の西側には矢作川が形成した沖積地が広がっていますが、そこに面する調査区西側の斜面から、6基の方形周溝墓が見つかりました。

方形周溝墓とは、四角い溝を巡らせたお墓のことで、主に弥生時代の有力者層の墓と考えられています。市内ではこれまでに、下記の遺跡で方形周溝墓が調査されています。

- ◆江古山遺跡(東保見町) / 1基 / 古墳時代前期
- ◆高橋遺跡(高上・上野町・高橋町) / 可能性のあるものを含め9基 / 弥生時代終末期を中心
- ◆南山畑遺跡(広川町) / 1基 / 弥生時代終末期
- ◆川原遺跡(鴛鴨町) / 可能性のあるものを含め19基 / 弥生時代中期中葉～後期

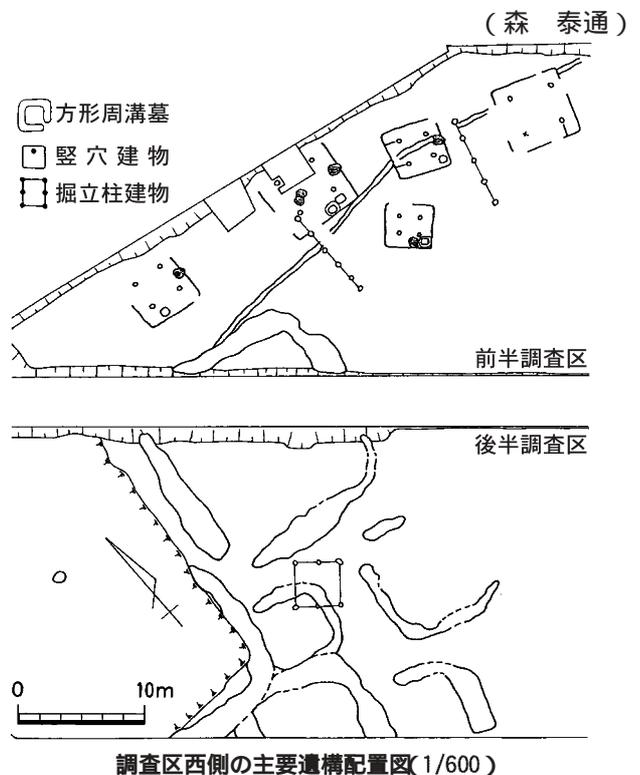
今回調査した方形周溝墓6基は近接して軸をそろえ、中には溝が重複する例も見られます。幅2m、深さ40cm前後の溝の内側にはおそらく低い盛土があり、そこに埋葬主体があったと考えられますが、これまでの開発などで残念ながら残っていませんでした。

溝の外側で方形周溝墓の規模を測ると、最も大きいもので17.5×17.0m、小さいもので1辺7m前後となります。溝は全周せずに一・二隅が途切れており、ここが墓と外部との通路になっていたと考えられます。

溝の中からは、墓に供えられたと考えられる土器が少量出土しました。いずれも弥生時代中期末頃(約2,000年前)の土器で、この頃に相次いで墓が営まれたものと思われます。方形周溝墓群は、近世の開墾で

大きくえぐり取られていた西側の斜面下方や、来年度調査予定の南側にさらに展開することが予想されます。

それでは、方形周溝墓を築いた人々はどこに住んでいたのでしょうか。堂外戸遺跡ではこれまで、4～6世紀の古墳時代の住居跡を数多く調査してきましたが、弥生時代の住居は全く見つかっていません。母体となった集落を見つけることが、今後の大きな課題となりそうです。なお、北東側の6世紀代の竪穴住居が方形周溝墓とは重複していないことから、この時期には未だ墓が姿を留めており、後に堂外戸遺跡に居住した人々が、それらを意識していた可能性があります。



方形周溝墓から出土した土器



方形周溝墓群

矢作川河床埋没林の調査はじまる

沖積平野の古環境復元

矢作川は長野県南部に源を發し、愛知県の中央を南流し三河湾に注ぐ河川です。平成16年夏、中流域の碧海平野をのぼりつめた豊田市と岡崎市の境界に位置する豊田市畝部東町、岡崎市西蔵前町、通称天神橋の下流約300mの河床から樹根群が発見され、埋没林であることが判明しました。すでに十数年前から地元では河床や沿岸低地の工事現場から樹木の出土は知られていました。平成16年2月に豊田市によって樹根の年代と樹種を調査したところ、C14年代で 2676 ± 26 年前（縄文時代晩期）樹種はコナラ属であることがわかりました。



埋没林の現況

埋没林は過去の森林がそのまま埋まり、残存したもので、過去の環境、生態系とその変遷を高い精度で知ることができます。埋没の原因は火山の噴火、地殻変動、海水面の変動、洪水など多様な要因が考えられます。これまでに埋没林は島根・富山・静岡・埼玉・宮城・青森県内等で発見され、年代は数百～数万年前で相当な幅があります。著名な例としては島根県三瓶小豆原（3,700年前）、富山県魚津（2,000年前）、宮城県富沢遺跡（20,000年前）、青森県猿ヶ森ヒバ（800年前）埋没林が知られています。

矢作川河床埋没林は幅約50m、上下約100mほどの範囲に黒色の泥炭層を伴って樹根、倒木50本余が確認されました。河川区域内であるため現地保存が困難で、現状では流水の影響で水没と乾燥がくりかえされ、萎縮と劣化が激しいため、現状で一刻も早く、残された

より多くのデータを引き出すことに視点を置いて記録保存を選択しました。

埋没林の分布域が豊田・岡崎両市におよぶため、両市、県教育委員会で協議し、両市合同の調査をする方向がだされ、矢作川河床埋没林調査会を組織しました。調査は自然地理、環境史、年代測定の三分野からアプローチすることにし、下記の研究者にお願いしました。

海津正倫（自然地理・名古屋大学大学院教授）、辻誠一郎（環境史・東京大学大学院教授）、森 勇一（珪藻・昆虫遺体分析・愛知県立津島東高校教諭）、中村俊夫（年代測定・名古屋大学年代測定総合研究センター教授）、木村勝彦（年輪年代学・福島大学助教授）



年輪年代測定用の輪切りの切取状況

調査は平成17年11月29日より分布図の作成から開始しました。12月12～14日に現地で、全樹木に番号を付し、樹種同定のサンプル採取や泥炭層から植物、昆虫類の遺体を含む土壌採取、年輪年代測定用の輪切りの切取り等の作業を行いました。12月26～28日には深度15mの機械ボーリングによる地質調査、18年1月9、10日にはトレンチ掘削による埋没林の生育層の面的な追及、下旬にはハンドボーリングで土壌調査を左岸堤防西側の沖積地に広げました。今後各種分析、同定、現地調査を重ね、平成19年3月には成果をまとめる予定です。

今日では想像もできない沖積平野に鬱蒼とした大規模な森が広がっていたことが証明され、埋没の原因、人との関わりなど新たな興味ある問題を投げかけてくれるでしょう。（松井 孝宗）

岩倉山長慶寺観音堂(岩倉町吉ヶ入)に安置されている木造十一面観音立像です。像高は61.3cm。本像は左手を曲げて水瓶を持ち、右手を下げ、頭上の変化面は2段に並べた一般的な様式のもので、彩色はほとんど剥落し生地が露呈して黒色を呈しています。衣文は簡略化され、頭髪は荒く刻んで毛筋は彫られていません。

文化財シリーズ



木造十一面観音立像
県指定文化財・彫刻

日本における十一面観音像は7世紀後半頃から始まり、奈良時代にかけてひろまったとされ、片手を曲げて水瓶を持つ様式のものが多くみられます。8世紀後半には左手を曲げる形のもの定着したといわれています。この形は平安時代になってもほとんど同じで、典型的な立像が多く造られています。鎌倉時代にいたっても基本に沿ったものが多く作られますが、典型以外のものも平安時代に較べて多少

作られています。また、この頃から画像も多く製作されるようになりました。

本像は典型的な様式で製作されたもので、全体の形態や作風から地方作と考えられ、時期的には平安時代後半から鎌倉時代にかけて製作されたものと推定されています。



資料館NEWS

冬休みこども週間

平成17年12月23日～平成18年1月9日

こままわし・羽子板・すごろくなどのお正月の遊びを体験するコーナーを設けました。昔からの遊びが現代の子どもたちには、かえって新鮮に感じられたのか、これらの遊びに熱中する子どもたちの姿がよく見られました。

12月23日・27日には、餅つきとお正月のかざりものの「花もち」づくり、1月6日は和紙と竹ひごを利用した和風づくりの講座を開催しました。両講座で、約180名の参加者がありました。

文化財防火デー【1月26日】

本年は1月19日～30日に如意寺(力石町)・長慶寺(岩倉町)・平勝寺(綾渡町)・隣松寺(幸町)・浄照寺(若林西町)・七州城(小坂本町)といった国・県・市指定文化財の彫刻・絵画などを所蔵する寺院や登録文化財の建物において、それぞれの所蔵者・消防署の協力により実施しました。



利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.54■

平成18年2月1日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。